

PEAKS

Leaders' Forum on
Promoting the Evolution of Academia for Knowledge Society

大学支援フォーラムPEAKS 日本型大学成長モデル アドバイザーWG 最終まとめ

2026年2月27日

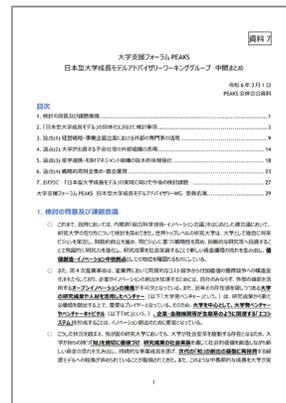
※本資料の内容の一部および全てについて、無断での複製・転載等などの二次利用を固く禁じます。

日本型大学成長モデルアドバイザーWG「最終まとめ」の位置づけ

- 本資料は、「日本型大学成長モデルアドバイザーWG」にて議論した内容及び中間まとめ（令和6年3月1日）で提言した事項について、政府での取組、先進事例であるPEAKS実証事業採択大学の取組及びその横展開をまとめることで、**提言の実施状況を整理することを目的とする。**

「中間まとめ」までの議論

- 大学支援フォーラムPEAKSでは、令和4年12月に「**日本型大学成長モデルアドバイザーWG**」（以下「**大学成長WG**」という。）を設置した。
- 大学成長WGでは、第1期PEAKS実証事業（令和4年12月～令和5年6月）*の成果も踏まえ、大学が有する「**知**」の**アセットを収益化**することを通じて、**持続的な大学の事業成長を実現**するために、日本の研究大学に求められる事項を整理し、**令和6年3月1日に「中間まとめ」として、PEAKS全体会合に報告した。**
 - * 大学支援フォーラムPEAKSで実施している「日本型大学成長モデルの具体化及びそれを支える大学経営人材の確保・育成に係る実証事業」。採択大学に対して伴走支援を行い、好事例を創出すると共に、ノウハウ集の作成やセミナーの開催等を通じて、好事例を横展開することを目指している。
- 大学成長WG「中間まとめ」では、**政府が民間の専門人材を大学が自らの経営に活かすための仕組みを検討するとともに、各大学は具体的な取組を実行することが重要であることを指摘した。**



資料7	
大学支援フォーラムPEAKS 日本型大学成長モデルアドバイザーワーキンググループ 中間まとめ	
令和6年3月1日 PEAKS全体会合資料	
目次	
1. 提言の背景及び課題意識	1
2. 日本型大学成長モデルの推進体制及び取組内容	3
3. 民間の「知」の活用・事業収益化に向けた関係者の連携	9
4. 民間の大学に採り得る多様な形の収益化取組	14
5. 民間の大学関係者に対する支援体制の構築	18
6. 民間の大学の収益化推進への留意事項	21
7. 附則「日本型大学成長モデルの実現に向けた今後の課題」	27
大学支援フォーラムPEAKS、日本型大学成長モデルアドバイザーWG 事務局	29



内閣府 PEAKS
大学支援フォーラムPEAKS
日本型大学成長モデル
アドバイザーワーキンググループ
中間まとめ 概要版
2024年3月1日

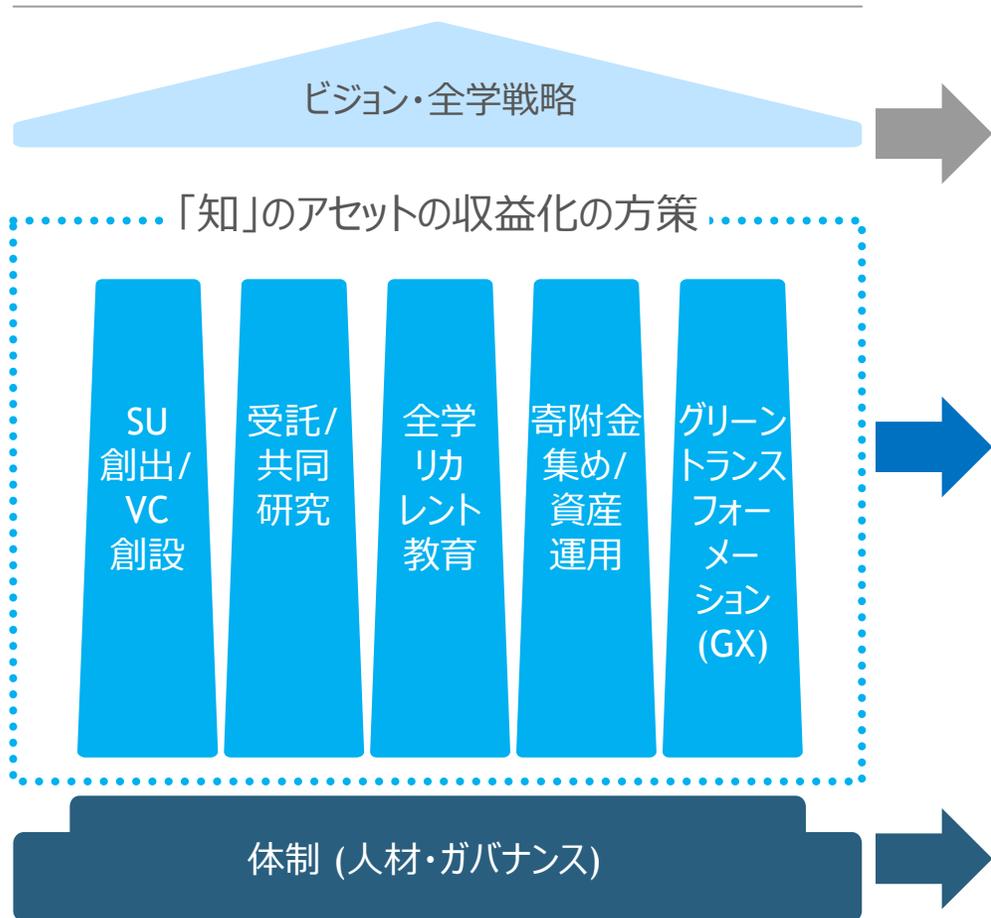
「最終まとめ」の位置づけ

大学成長WGにて議論した内容及び「中間まとめ」で提言した事項について、政府での取組や、PEAKS実証事業採択大学(以下「PEAKS実証校」という。)の取組及びその横展開をまとめることで、**提言の実施状況を整理する**

大学成長WG「中間まとめ」の提言内容と本資料の構成

- 大学成長WGの「中間まとめ」で提言した内容のうち、「民間の専門人材の大学経営への参画」については政府での検討・実施事項、その他の論点は各大学での具体的な取組を報告する。

日本型大学成長モデルのフレームワーク*



「中間まとめ」の主な提言事項(抜粋)

- 「研究」や「教育」と並んで、「社会実装」（大学の「知」を活かした社会的・経済的インパクトの創出）を意識したビジョン・全学戦略が必要
- 大学発スタートアップの創出が重要
 - 大企業との連携が中心であった産学連携・知財マネジメント組織を抜本的に強化することが重要
- 戦略的に寄附金を集め、資産運用を行うことが重要
- 大学の経営改革/事業企画に、「知」のアセットの収益化に専門性を持つ民間の専門人材が参画することが効果的
- 大学が出資する子会社等の外部組織を活用することも考えられる

「最終まとめ」での報告

- ① 政府における取組
- ② 第1期～第3期 PEAKS 実証校における取組
- ③ PEAKS実証校における好事例を横展開する「PEAKS 大学経営改革セミナー」

*日本型大学成長モデルに関する検討事項「第1期PEAKS実証事業ノウハウ集」より引用。

(参考) 第1期～第3期 PEAKS実証事業の実証校・実証テーマ一覧

	大学名	実証テーマ
全学戦略	 広島大学	地域中核大学における新たな経営資源獲得スキーム構築に資する実証事業 - Town&Gown構想との連動による「知のアセット」経営資源化の加速-
	 北海道大学 HOKKAIDO UNIVERSITY	半導体政策に対する大学のあるべき姿のグランドデザイン - 本学がとるべき教育・研究・地域連携に関する戦略 -
	 大阪大学 OSAKA UNIVERSITY	IR駆動型研究力強化を軸とした全学的経営マネジメント改革 - 部局長の経営マネジメント力の引き上げ -
研究力強化/ 産学連携/ スタートアップ創出	 九州大学 KYUSHU UNIVERSITY	九大独自の "University Venture Fund" の組成
	 名古屋大学 NAGOYA UNIVERSITY	大学が大学スタートアップへの直接出資を可能とする大学VCの設立
	 学校法人立命館	大学が主体となり、ファンド・実証実験を元に、外部の知と内部の知を融合させるモデル
教育・人材育成	 UTokyo	「『自律的で創造的な大学モデル』の構築」に向けたリカレント教育
	 (奈良先端科学 技術大学院大学) NAIST	博士国際人材としての国内定着を目指す戦略的な留学生リクルートと留学生向けキャリア支援
財源多角化	 京都大学 KYOTO UNIVERSITY	寄附金募集活動の強化に係る戦略
	 岐阜大学	地域中核大学における基金充実のための戦略策定
	 国立大学法人 東京農工大学 Tokyo University of Agriculture and Technology	東京農工大の経営自律化計画の策定とその実現に向けて - 土地建物有効活用を中心に -
経営システム (人事・財務) 改革	 新潟大学 NIIGATA UNIVERSITY	エキスパート人材の拡大・組織化による中核拠点研究大学の機能強化 (University Administrator制度)
	 熊本大学 Kumamoto University	地域社会のニーズに即応できる機動的な人事の在り方・制度を実現する財務・経営構造の構築

*本資料では、中間まとめの提言と特にかかわりが深い事例をピックアップし掲載

(参考) 日本型大学成長モデルアドバイザーWG 活動状況

(令和4年度第1回)

- 日時：令和5年3月9日（木）10：00～12：00
- 概要：日本型大学成長モデルの検討にあたっての課題の検討及び意見交換

(令和5年度第1回)

- 日時：令和5年6月27日（火）10：00～11：00
- 概要：大学における社会実装に関する取組みについての紹介及び意見交換

(令和5年度第2回)

- 日時：令和5年9月27日（火）15：00～17：00
- 概要：大学外部の人材による大学経営への関与や取組みについての紹介及び意見交換

(令和5年度第3回)

- 日時：令和6年1月17日
- 概要：これまでの議論の振り返り、中間報告内容の検討と今後に向けた意見交換

(令和5年度PEAKS全体会合)

- 日時：令和6年3月1日
- PEAKS全体会合にて、本ワーキンググループの中間まとめの発表

日本型 大学成長モデル アドバイザーWG 最終まとめ 目次

- ① 政府事業への反映
 - 大学経営戦略・政策企画立案における民間の専門人材の活用推進
- ② 第1期～第3期 PEAKS 実証校における取組
 - (1) 社会実装をビジョンに掲げた全学戦略
 - (2) 大学発スタートアップの創出
 - (3) 戦略的寄附金集め・基金運用
 - (4) 大学内部の経営・産学連携体制の構築
 - (5) 大学が出資する子会社等の外部組織の活用
- ③ PEAKS 大学経営改革セミナーでの先進事例の横展開

①政府事業への反映：大学経営戦略・政策企画立案における民間の専門人材の活用推進

- 「中間まとめ」では、**大学経営において民間の専門人材を活用**することの重要性を提起した。
- 本提言は、国際卓越研究大学制度の設計・審査やJ-PEAKS事業の「アドバイザー」設置など、**政府事業の方針とも一致する**。

国際卓越研究大学制度(文科省)

大学成長WG「中間まとめ」に示された大学と民間の専門人材との対話のノウハウなどを活用し、国際卓越研究大学の審査過程では、産業界を含む有識者委員等と、大学側との丁寧な対話等を実施

大学ファンドの支援対象となる国際卓越研究大学の公募・選定について

1. 公募・選定のポイント	
判断	これまでの実績や蓄積のみで判断するのではなく、世界最高水準の研究大学の実現に向けた「 変革 」への意思(ビジョン)とコミットメントの提示に基づき実施。
大学数	制度の趣旨を踏まえ、認定及び認可される大学は無制限に拡大するものではなく、 数校程度に限定 。また、大学ファンドの運用状況等を勘案し、段階的に認定及び認可を行う。
要件	制度の趣旨や大学の負担も考慮し、大学認定と計画認可の審査プロセスを一体的に実施。 <ul style="list-style-type: none"> 1. 国際的に卓越した研究成果を創出できる研究力 2. 実効性高く、意欲的な事業・財務戦略 3. 自律と責任のあるガバナンス体制
審査体制	総合科学技術・イノベーション会議及び科学技術・学術審議会が適切に情報共有等の連携を行うことができる体制(アドバ)
段階的審査	審査においては、 研究現場の状況把握や大学側との丁寧な対話を実施 (書面や面接による審査だけでなく、現地視察、体制強化計画の磨き上げなど多様な手段により審査を実施)。



**大学成長WG
「中間まとめ」とアライン**

2. 第2期公募のスケジュール

令和7年6月～ アドバイザーボード 書面審査、総括審査、面接審査(全8大学)、現地視察(6大学)、面接審査、総括審査

12月 第2期公募の審査状況を公表

- ・東京科学大学は令和8年4月から体制強化計画開始
- ・京都大学は認定候補として最長で1年間、体制強化計画の磨き上げ
- ・東京科学大学は最長で1年間、審査継続

令和8年1月～ CSTI及び科学技術・学術審議会の意見を聴き、文部科学大臣が東京科学大学を国際卓越研究大学に認定
今後、東京科学大学が体制強化計画を文部科学大臣に提出後、意見聴取等の手続きを経て、文部科学大臣が認可の判断を行う予定

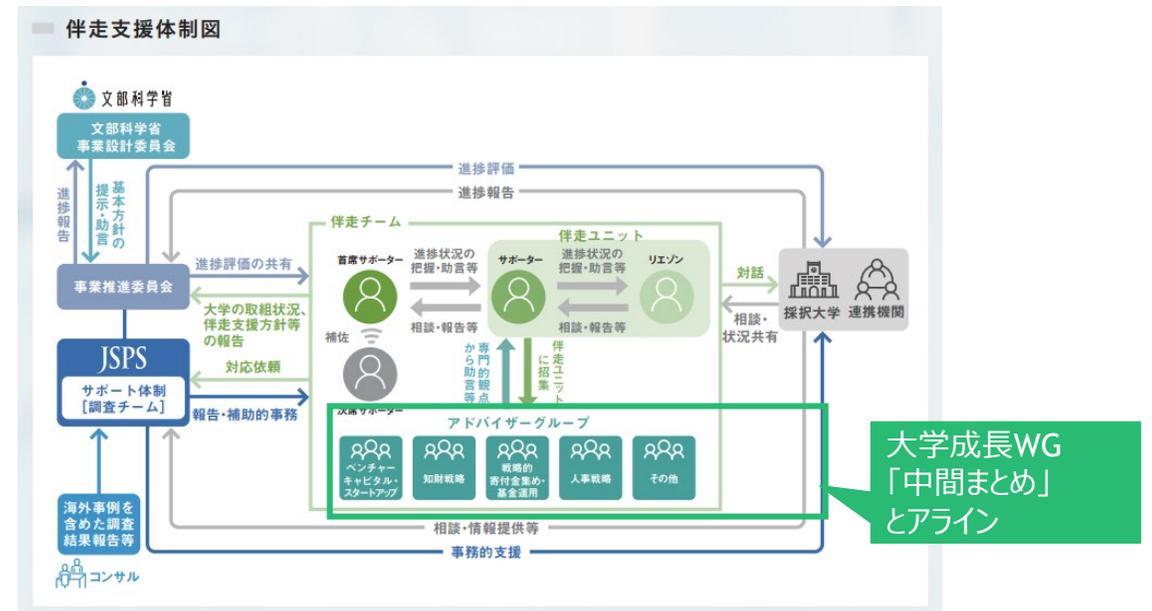
令和8年4月～ 東京科学大学の体制強化計画開始

出典：文部科学省 国際卓越研究大学制度について(令和8年1月)

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS) (文科省)

大学成長WG「中間まとめ」も踏まえ、大学改革への伴走支援のため、**民間の専門人材からなる「アドバイザー」を設置**

- 大学成長WG委員から青柳・陶山委員がアドバイザー就任



出典：日本学術振興会 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS) パンフレット (2025.7発行)

②PEAKS実証校における取組 (1) 社会実装をビジョンに掲げた全学戦略

- 「中間まとめ」では、「研究」や「教育」のみならず、「社会実装」をビジョンに掲げた全学戦略が重要であることを提起した。
- PEAKS実証事業では、社会実装を前提とした全学的な改革に着手する大学が現れ始めている。

「中間まとめ」における提言（要旨）

- 「研究」や「教育」と並んで、「社会実装」（大学の「知」を活かした社会的・経済的インパクトの創出）が大学のミッションであることを明確にする必要がある。
- 「社会実装」をミッションに掲げた全学戦略を策定し、既存の前提や慣行にとらわれず変革を目指すことが、「知」のアセットの収益化を通じた持続的成長に繋がる。



PEAKS実証校における取組

北海道大学 (PEAKS実証第2期)

- 国家戦略によって北海道地域に半導体関連産業が立ち上がることを踏まえ、「北海道、ひいては日本全国、世界の半導体に関する課題解決へ貢献」をビジョンに、全学的な改革に着手した。
- 令和7年年4月に半導体教育研究推進のヘッドクォーター機能を担う「半導体フロンティア教育研究機構」を設置した。
- 先端半導体と北海道大学の強みである「AI・データサイエンス」「フィールド科学」を活かし、教育・研究を進めている。
 - 半導体を「つくる」人材、半導体を「つかう」人材の育成
 - 半導体開発に資する研究、半導体の新たな利用開拓（ユースケース開拓）を見据えた研究の推進
 - 「半導体プロトタイピングラボ」の整備・運営

広島大学 (PEAKS実証第2期)

- 地域自治体と連携して科学技術イノベーションの社会実装を目指す「Town & Gown構想」を推進している。
- 強みを持つ各研究領域の研究特性・産業特性に応じ、「知」のアセットの収益化スキームを選択し、最適化している。
- 必要な体制（産学連携強化組織など）へ投資し、人材配置を進めている。

②PEAKS実証校における取組 (2) 大学発スタートアップの創出

- 「中間まとめ」では、「知」のアセットの収益化の方法として、「**大学発スタートアップ**」が重要であることを提起した。
- PEAKS実証事業では、**大学発スタートアップを中心として、イノベーション・エコシステムの創造に取り組む大学**が出てきている。

「中間まとめ」における提言（要旨）

- 大学発スタートアップの創出やVCの創設を目指すにあたっては、大学の有する「知」が、**新しい産業の創出や産業構造転換に資する**ようなイノベーションに繋がるように取り組むことが重要である。
- 日本の研究大学は大企業との産学連携では一定の成果を挙げている一方で、**スタートアップ・エコシステム（国内外のスタートアップやVC）との連携には改善の余地がある。**
- 特に、これまでは大企業や地域の中小企業との連携を想定した取組が中心だったところ、**スタートアップ・エコシステムとの協創に当たっては、産学連携・知財マネジメント組織の機能強化をより一層図る必要がある。**



PEAKS実証校における取組

九州大学 (PEAKS実証第1期)

- 九州大学は、**25億円規模の『九大イノベーション・チャレンジ・ファンド（ICF）』**を設置し、創業後の新株予約権等の取得を条件に大学発の技術の事業化を支援し、創業から一定期間を経て事業が軌道に乗ったタイミングで新株予約権等を投資家などへ譲渡することで、資金を新たな創業支援の原資として活用し循環させるモデルを構築

名古屋大学 (PEAKS実証第1期)

- 東海国立大学機構傘下に、「**株式会社Central Japan Innovation Capital**」を2024年11月1日付けで設立した。
- 第1号ファンドは愛知県・名古屋市・三菱UFJ銀行、愛知銀行などを中心に**34億円規模で組成**し、幅広い分野のディープテックに投資することで、国内屈指の産業集積地である**東海地域でスタートアップ創出を進めることを目指している。**

立命館大学 (PEAKS実証第1期)

- 立命館大学は、大学の「知」によるソーシャルインパクトの創出を実現する「次世代研究大学」を目指して改革を進めている。
- その一環としてソーシャルインパクト・ファンドの創出を目指し、かんぽ生命や大和証券との連携で、2024年には**70億円規模のソーシャル・インパクト・ファンドを設立した。**

②PEAKS実証校における取組 (3) 戦略的寄附金集め・基金運用

- 「中間まとめ」では、**戦略的寄附金集め**、及びそれを原資に運用する**エンダウメント型モデルへの転換**を提言した。
- PEAKS実証事業では、**寄附金集めの高度化、及び基金造成を行う大学**が現れている。

「中間まとめ」における提言（要旨）

- 研究や事業に投資するための原資を確保するため、**戦略的に寄附金集め**を行った上で、**寄附金を主な原資とした大学独自基金の造成・資産運用**が効果的である。
- 寄附金集めでは、**トップのコミットメントを増やす**こと、また**ファンドレイザーを採用・育成**することが有効である。
- 資産運用においては、優秀なファンドマネージャーを雇うことが重要になり、スケールメリットを活かして給与原資を確保するため**複数の大学による共同での基金創設も検討が必要**である。

PEAKS実証校における取組

京都大学 (PEAKS実証第1期)

- 京都大学では**自律的な経営への転換を支える財源として寄附金に着目**し、PEAKS実証事業では**寄附金集めの戦略**を立案した。
- 京都大学は2007年3月に京都大学基金を設立し、寄付受入総額は2024年3月末時点で704億円にのぼる。
- 寄附金獲得を含めた外部連携強化の重要性が高まったことを受け、2024年度に抜本的な組織改革を行い「成長戦略本部」を設置。社会と大学とのインターフェースとして、寄附金集めと共同研究・スタートアップ創出の連携を強化することで法人寄附や篤志家からの寄附を集めている。

岐阜大学 (PEAKS実証第3期)

- 岐阜大学は、自律した大学経営に向けて、**寄附金を原資とした運用のための基金（大学経営自律化促進事業）**を2025年度に新設した。
- 基金への寄附金を集めるため、**ファンドレイザーを雇用**のうえ、**学長・執行部も時間を投下**し、地域企業との「共創」を軸に、研究・教育も含め包括的に連携する寄附金集め戦略を策定した。
- 資金運用においては、**名古屋大学と共同で、東海国立大学機構**において運用することで、スケールメリットを活かしている。

②PEAKS実証校における取組 (4) 大学内部の経営・産学連携体制の構築

- 「中間まとめ」では、**大学内部の経営体制・産学連携体制の抜本的強化**を提言した。
- 提言を踏まえ、**学内の人事体制を見直し、体制を強化する事例**が現れ始めている。

「中間まとめ」における提言（要旨）

- 大学が「社会実装」をミッションの一つとして経営される場合、**研究者の評価の在り方も、「社会実装」の観点を適切に組み込むよう、踏み込んで見直しを行う必要**がある。
- 専門的な知見を持った人材を常勤として確保することが必要である場合等には、**従来の大学とは異なる柔軟な給与体系**なども含め、人事体制を見直すことが必要になる



PEAKS実証校における取組

熊本
大学
(PEAKS実証
第3期)

- 熊本大学では、大学として「**地域・社会のニーズへの即応**」を目指し、機動的な教員人事を可能にするよう、**全学的な教員人事の一元化をはじめとする人事改革**に着手
 - 「新たな教員組織の新設」、「業績評価の見直し」に留まらず、人事全体を広く検討

新潟
大学
(PEAKS実証
第2期)

- 部署・事業ごとに点在していた専門人材を、大学経営・事業開発・学外連携等を担う「**エキスパート人材(UA = University Administrator)**」として再定義・組織化し、**教員・職員と異なる独自の職として人事体系を構築した。**
- UAは、独自の職階とキャリアパスを用意し、**執行部による採用/昇格**を行い、**評価に基づく業績給型年俸給与・裁量労働制を適用**するなど、**従来の大学の教職員とは異なる位置づけ**となっている。
 - 学内でスペシャリストとしてのキャリアパスを構築し、それらをセンター等のマネージメント部門に配置し、部署を越えて連携するシステムを構築した点で、WGの提言よりさらに深化した取組となっている

②PEAKS実証校における取組 (5) 大学が出資する子会社等の外部組織の活用

- 「中間まとめ」では、大学が**子会社等の外部組織を活用**することの重要性を提案した。
- 提言を踏まえ、外部組織を活用することにより、Gap Fund立上げやリカレント教育拡充を行う大学が現れている。

「中間まとめ」における提言（要旨）

- 大学法人とは異なる給与設定や意思決定のスピード向上を可能とするため、**大学が出資する子会社等の外部組織を活用**することも考えられる。
- 外部組織を活用することにより、**専門人材やノウハウが蓄積**され、将来的には、専門人材の知見や培ったノウハウを大学改革に活用することも期待される。

PEAKS実証校における取組

九州
大学
(PEAKS実証
第1期)

- 九州大学100%出資の子会社として**九大OIP株式会社** (Kyushu University Open Innovation Platform Co., Ltd.) を設立した。
- 九大OIPは、研究成果の実用化に向けた**共同・受託研究の企画・斡旋、共同・受託研究のマネジメント業務、研究成果を活用したコンサルティングや研修・講習業務、研究成果の企業への移転業務、研究成果を活用したベンチャーの創出・育成支援業務**などを幅広く担っている。
- 子会社にすることで独自の給与体系と機動的な意思決定を可能とした。

③PEAKS 大学経営改革セミナーでの先進事例の横展開

- 提言した内容・これまでのPEAKS実証事業から導き出されたノウハウを、**実証校でない大学の改革を推進するため横展開すべく、PEAKS加盟大学を対象に、「PEAKS大学経営改革セミナー」**を令和7年度実施

課題意識・背景

- 大学成長WG「中間まとめ」で取りまとめた提言は、PEAKS 実証事業を通して具体的な取組として実装されつつある。
- しかし、今後**より多くの大学での実行が重要**
- そのためには、PEAKS実証校をはじめとする**先進事例を、日本全国の大学へと共有・横展開**することが有効
- その際、**各大学での実行においては、自らのおかれた文脈も踏まえて、先進事例をカスタマイズ**することが必要



PEAKSにおける取組

PEAKS 実証事業で創出した先進事例を PEAKS加盟の他大学に共有するため、「大学経営改革セミナー」を令和7年度に3回実施

- PEAKS実証校の先進事例を紹介しながら、参加者が「どのようにカスタマイズしながら、自学に先進事例を取り入れるか」を議論・検討できるよう、講演とグループディスカッション、また事前・事後課題を組み込んだプログラムを実施

令和7年度実施テーマ (3回)

イノベーション
エコシステム

人事改革

寄付金集め・
財務マネジメント

PEAKS大学経営改革セミナー 概要

- 「イノベーション・エコシステム」の回は、数多くの方に先進事例について知っていただき、参加者の今後の取組のアイデアに繋げるため、オンライン開催・130分で実施した
- 「人事改革」「寄付金集め・財務マネジメント」は、クローズドな場での密な議論を通し、参加者それぞれのネクストステップを明確にするため、対面開催・5時間で実施した

テーマ	日程/形式	内容	参加者	アジェンダ
イノベーション エコシステム	2025/12/22 12:30 - 14:40 (オンライン)	大学等に眠るシーズを社会実装する方法論や、社会的ニーズを起点に研究を深めるための取組	参加者60名*1 理事から現場担当者まで 幅広く参加 (以下は参加者の職位の分布*) <ul style="list-style-type: none"> 理事・機構長24% 教授・准教授24% 職員34% UA・URAなど18% 	モデル事例のご紹介 (70分) <ul style="list-style-type: none"> 九州大学OIP (PEAKS実証事業1期)「九州大学オープンイノベーションプラットフォーム(OIP)とイノベーション・チャレンジ・ファンド(ICF)を軸にした九州地域でのイノベーションエコシステムの形成」 学校法人立命館 (PEAKS実証事業1期)「『次世代研究大学』の実現を目指して～大学の知によるソーシャルインパクトの創出～」 AIST Solutions (※産総研100%出資の子会社)「企業の新規事業を"共創型"で立ち上げるための方法と体制～AIST Solutionsにおける社会実装の方法～」 ディスカッション (60分)
人事改革	2026/1/14 13:00 - 18:00 (対面)	社会のニーズに応えるための大学の経営の高度化に向け、教員(研究者)の採用・配置などに加えて、事務職員やURA/UA等の専門職までを含めた「人材」のマネジメントの方法	参加者39名 理事からURAまで人事改革に関わる方が幅広く参加 (以下は参加者の職位の分布) <ul style="list-style-type: none"> 理事33% 教授・准教授13% 職員37% UA・URAなど17% 	モデル事例のご紹介 (2時間) <ul style="list-style-type: none"> 熊本大学 (PEAKS実証事業3期)「地域社会のニーズに即応できる機動的な人事の在り方・制度を実現する財務・経営構造の構築」 新潟大学 (PEAKS実証事業2期)「大学経営人材の確立・組織化による中核拠点研究大学の機能強化 (University Administrator制度)」 ディスカッション (3時間)
寄付金集め・ 財務 マネジメント	2026/2/5 13:00 -18:00 (対面)	外部資金獲得の方法の一つとして重要な「寄付金」獲得の方法。及び、集めた外部資金を活用し、資金運用を含めた財務マネジメントの在り方	参加者45名 ファンドレイザー、URAなど 含め多様な方が参加 (以下は参加者の職位の分布) <ul style="list-style-type: none"> 理事 9% 教授・准教授 9% ファンドレイザー 13% 職員・URA 69% 	モデル事例のご紹介 (2時間) <ul style="list-style-type: none"> 京都大学 (PEAKS実証事業1期)「寄附金募集活動の強化に係る戦略」 岐阜大学 (PEAKS実証事業3期)「地域中核大学における基金充実のための戦略策定」 文部科学省研究振興局大学研究基盤整備課資金運用企画室からの情報提供 ディスカッション (3時間)

*1: Zoomにて実際に参加が確認された方の人数; *2: 第1回PEAKS大学経営改革セミナー イノベーションエコシステム 事後課題 (n=33) に回答頂いた方の属性分布

PEAKS大学経営改革セミナー 成果の概観

- いずれのセミナーも、参加者の取り組みたい内容の深化・ネクストステップの具体化に繋がっており、**本WGの提言は、本セミナーを通して、全国の大学に広がり始めている**

テーマ

成果

概観

具体的な「取り組みたい内容」

イノベーション
エコシステム

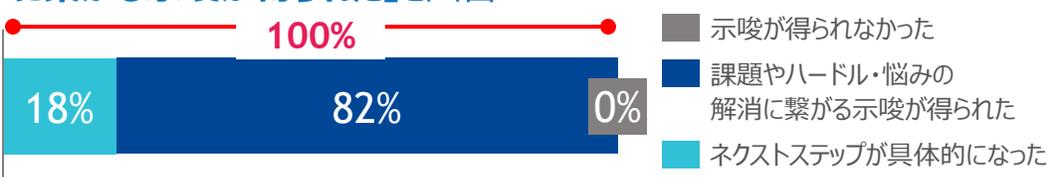
94%の参加者が、取り組みたい内容の方向性を深められたり、進め方の具体化ができたと回答



- イノベーション加速のため、大学が主体的なアクションを検討している
- 外部機関とのコンソーシアム形成によるGAPファンド等の資金集めとSU投資を進める仕組みの検討を始めたい
 - 人社系研究の大学発スタートアップやイノベーションへの組み込みをソーシャルイノベーションの観点から進めたい
 - AISTを参考に、自学の研究ニーズと企業の課題/市場課題などのニーズと結びつけ、オープンイノベーション創出を加速したい

人事改革

全参加者が、「ネクストステップが具体化した」「悩み・課題の解消に繋がる示唆が得られた」と回答

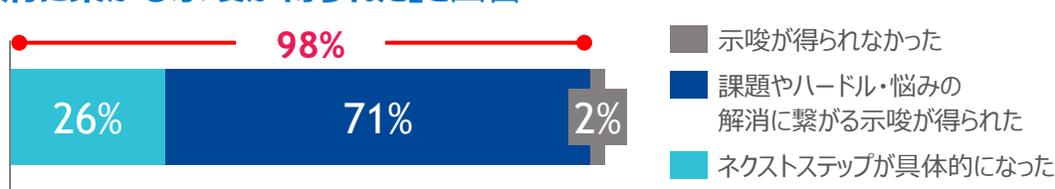


「人事改革」という難問に対し、先行事例について学んだことで、参加者が具体的なアクションに繋がろうとしている

- URA等の専門人材と事務職員とを包含したアドミニストレーション機構全体の改革を検討したい
- 長期的な観点、実務面、他の制度改革との整合性、柔軟性などの観点から、教員人事一元化を実現したい

寄付金集め・
財務
マネジメント

98%の参加者が、「ネクストステップが具体化した」「悩み・課題の解消に繋がる示唆が得られた」と回答



参加者は事例を吸収し、自組織に適用するため、具体的なアクション案を構想している

- 寄附集めは、卒業生との繋がりの再編が必要と痛感しており、同窓会に対して、新たな戦略を練る
- 資金運用に関して、リスク許容度に応じたポートフォリオを策定し、資産の実質的な価値を維持・成長させる体制を検討する

「イノベーション・エコシステム」セミナー 当日の様子

- PEAKS実証校取組への理解を深めただけでなく、「自学でもできることがないか」と考え始めた参加者の声が聞かれた

講演 (60分)

PEAKS実証校2校 (立命館大学・九州大学) 及び
産総研子会社AIST Solutions よりご講演



グループディスカッション (70分)

各グループで、紹介された事例について掘り下げるとともに、
参加者が「自身が行いたいこと」を議論



「人事改革」セミナー 当日の様子

- 講演と質疑応答では、人事改革で直面した課題・悩みまで含めて登壇者にお話しいただき、グループワークでも密に議論を行うことで、「事例の横展開」に留まらず深い議論ができた

講演 (2時間)

PEAKS実証校2校 (熊本大学・新潟大学) よりご講演

人事改革であつた課題・悩みなどをお話しいただいた



グループディスカッション (3時間)

各グループで「自学に帰ってから取り組みたい内容」について、課題・悩みを洗い出し、具体的なアクションプランを各自策定

登壇者だけでなく、実証に携わった現場担当者などを「アドバイザー」として呼び出し、参加者の悩みにお答え



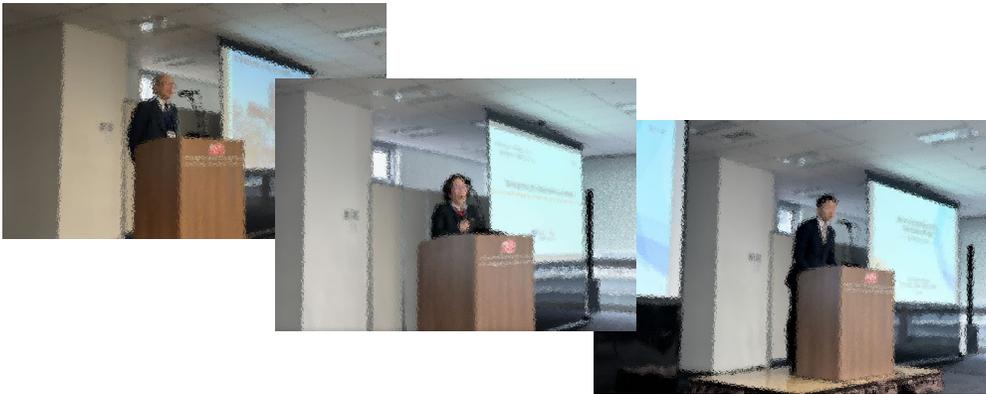
【参加者の声】 事業が出るたびに
必要な人をとる「逐次」の発想から
転換する必要性を痛感

「寄付金集め・財務マネジメント」セミナー 当日の様子

- 講演と質疑応答では「寄付金集め」に留まらない、大学全体の組織体制・財務マネジメントについてお話いただき、グループワークでも学内巻き込みなど、全学的な視座での議論を行った

講演 (2時間)

PEAKS実証校2校 (京都大学・岐阜大学) よりご講演のうえ、文部科学省からも資金運用に関する情報提供



「寄付金集め」だけに留まらない、組織体制・財務基盤構築 (資金運用含む) についてもご講演いただいた

グループディスカッション (3時間)

各グループで「自学に帰ってから取り組みたい内容」について、課題・悩みを洗い出し、具体的なアクションプランを各自策定



【参加者の声】寄付金を「単発的な資金調達」ではなく、「持続的な経営基盤」として位置づける視点の重要性をよく認識できた

参考資料

日本型大学成長モデルアドバイザーWGの委員（五十音順）

- ディーテック・スタートアップの経営者、ベンチャーキャピタリスト、大企業における産学連携の担当者等、30代、40代の**若手を中心**とした**多様な委員構成**で、「日本型大学成長モデルアドバイザーワーキンググループ」を設置した。

	ご氏名	ご所属
主査	安西 智宏	株式会社ファストラックイニシアティブ 代表パートナー
	伊佐山 元	株式会社WiL 共同創業者CEO
	青柳 光昌	一般財団法人 社会変革推進財団 (SIIF) 専務理事
	小泉 泰洋	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 経営企画部 担当部長
	小林 賢治	シニフィアン株式会社 共同代表
	鮫島 昌弘	ANRI株式会社 ジェネラルパートナー
	重松 路威	ニューラルポケット株式会社 代表取締役社長
	陶山 祐司	株式会社Zebras and Company 共同創業者 / 代表取締役
	名倉 勝	CIC Institute Director
	原田 謙治	株式会社メディカル・インキュベータ・ジャパン 執行役員
	三好 今日子	株式会社ボナック 元CFO
	渡邊 拓	HERO Impact Capital Founder & General Partner

大学支援フォーラム PEAKS